

Y.S.C.C.監督  
樋口 靖洋 さん  
インタビュー えのきどいちろう



あなたが子どもの頃に抱いた夢は？アスリートや一流の指導者が夢を持つことの大切さを語る「夢を信じて」。インタビュアーはコラムニストのえのきどいちろうさん。今回のインタビューゲストは、Y.S.C.C.監督の樋口靖洋さんです。

## もう人生の3分の2は横浜ですからね

——Y.S.C.C.の監督としてこの横浜に戻ってこられました。樋口さんにはやっぱり横浜のイメージがありますね。

**樋口** 高校を出て1980年に日産自動車サッカー部に入団してから、もう人生の3分の2は横浜ですからね。当時の日産のサッカー部には清水(秀彦)さん、早野(宏史)さん、金田(喜稔)さん。金田さんは僕のあこがれの選手でした。一緒にプレイできるって喜びながらも、そのレベルの高さにこれは厳しい世界だなあと驚きました。ケガをしたこともあって、なかなか試合にも出られず、監督から「日産がサッカースクールを立ち上げるので、そのコーチをやってくれ」と言われて…。日産で選手としてやらせてもらったのは5年でした。

——悔しいですね。

**樋口** 「もう1年やらせてほしい」と抵抗したんですけれどね。ただ、いつか学校の先生でサッカー部を指導したいっていう自分の夢もあって、願っていた指導の道なんだと自分に言い聞かせて受けた感じですね。今こうやってサッカーに携わって

いることを思えば感謝してまずですけど、その時は悔しかったですね。

——そんな思いの中で指導者としての人生が始まったんですね。その後、日本のサッカーの環境は大きく変わっていくんですが、当時はまだ道がないところに道を作っていくようなものだったと思うのですが。

**樋口** 指導ライセンスも何もなくて、自分たちの経験をどうやって伝えるかというところからスタートでしたね。子どもたちはスパイクもなくて運動靴。みんな初めてボールを蹴る子ばかり。サッカーを楽しませることから始めました。今年で32年目。最初の14年間で子どもたち、1999年にマリノスとフリーユージュエルズが合併した時からトップチーム。4歳の子どもからトップチームまでの年代を全部みさせてもらった指導者っていうのは、日本中でもそんなにいないと思うんです。

## 自分の発想以上のことを伝えていくことの必要性を気づかせてくれました

——すごい。指導してきた中で忘れられない選手たちは？

**樋口** 僕が最初に指導した子どもにフロンターレでプロになった寺田周平がいたんです。教え始めてどんどん上手くなって、指導の手心えを感じていたら、もう一人のコーチから「樋口のプレイと一緒だな、だったらおまえぐらいの選手にしなければならないぞ！」って言われたんです。はっと思いましたね。自分の発想以上のことを伝えていくことの必要性を気づかせてくれました。ただ教えるのではなく、指導に工夫を採り始めたのは彼との出会いですね。

——自分の発想以上のことを伝えるって…。

**樋口** 難しいです。たとえば当時だったら(木村)和司さんや(水沼)貴史さんという代表クラスのプレイを見本として伝えたりしましたね。そしてもう一人は、ラモンディアスの子どもでエミリアン。初めてスクールに来た時、リフティングが10回もできなかったんです。ぼくが教えている子どもたちと一緒に練習させるのは難しいんじゃないかなと正直思いました。でもゲームになるとそのエミリアンが一番点を取ります。それはもう衝撃的。点を取るためにどこにいたらいのかということを感じてわかってるんですね。そこから練習を変えたんです。技術練習してから最後にゲームだったのを逆にしてゲームから始めたり、ゴールをいくつも設定したゲームをしたり。サッカーは点を取るスポーツだという感覚そのものを大事にする方向へ。1年間実験してみたら日本の子どもたちが点を取るようになりました。

——ゴールに向かっていく意識ですね。

**樋口** それと同時にエミリアンもボールリフティングやドリブルがすごく上手くなってきた。相乗効果でこんなに変わるんだというのを経験しましたね。

——樋口さんの気づきが原点になった選手は多いのではないのでしょうか。

**樋口** こちらが教えられることも多いんです。た

たとえば石川直宏。しなやかで素晴らしい選手だなあとというのが最初の印象でした。でも彼が16、17才の頃だったかな、持ち前のしなやかさがなくなって、プレイの質が落ちたんですね。成長期によって筋肉と骨のバランスが悪くなったのがその理由だったんですが、僕は見誤って「今の状態だとプロは厳しいぞ」と言ってしまった記憶があるんです。成長期が終わってバランスを取り戻した彼はプロになったんですが、彼をつぶしてたかもしれないと思いつくと、今でも怖いなと思いますね。(中村)俊輔もそうでした。ユースに上がれなかったあと、高校であんなに身長が伸びるって想像できませんでしたから。選手はいつ変わるかわからないということを彼らから学びました。

——子どもが持つてる時計みたいなものが、それぞれみな違うんですね。

**樋口** どこでどう変わるかなんてわからないですよ。だから僕は指導者として絶対はずしちゃうけないのは、選手は育てるもんじゃなくて育つものだと。絶対にそうだと思つていきます。

〜後編に続く〜

## PROFILE プロフィール

### 樋口 靖洋(ひぐち やすひろ)さん

三重県立四日市中央工業高等学校1年生時全国高校選手権準優勝を果たし、1980年に日産自動車サッカー部(現在の横浜F・マリノス)に入団。選手としての活動は短く、1985年に日産サッカースクールのコーチに就任、その後マリノスのユースコーチ・監督、トップチームのコーチを歴任。2003年にS級ライセンスを取得し、2016年、Y.S.C.C.の監督に就任。